



日本共産党の躍進で参院選勝利を

紙とも子・はたやま和也の二人を国会へ！



参議院選挙必勝！ 日本共産党と総決起集会 日本後援会

紙智子さんが、超満員の参加者に対して「北海道の農業を守るため、3期18年、参議院で国会論戦を

6月15日、岩見沢市民会館で「参議院勝利！決起集会」が開催されました。150名定員の会場に170名が集まり、夕張からは16名が参加しました。オープニングでは、おなじみの「Gブラザーズ」がギター演奏と歌で会場を盛り上げました。

冒頭、上田久司地区委員長から「参議院選挙で奮闘し、比



例の議席を必ずまもり、選挙区(定数3)のはたやま和也候補も、議会へ送り出しましょう」との挨拶がありました。

決起集会に170名参加！



続いて、熊谷泰昌南空知後援会代表世話人から「後援会の仲間を増やし、比例の紙智子さんを必ず当選させ、北海道選挙区のはたやま和也さんを再び、国会へ送り出すために、みなさんご一緒にがんばりましょう」との挨拶がありました。

参議院予定候補からのメッセージが紹介されました。各地域・団体からの決意表明では、美唄の吉岡健二郎さんから「美唄市議選で2議席を失い、申し訳ありません。参議院選挙では、その悔しさをバネに、総力をあげて、奮闘します」と涙の決意表明がありました。



夕張からは、くまが桂子市議が「夕張でもかつて、議席を失ったが、声・紙・インターネットを使って総合的に宣伝を

ました。次にはたやま和也の参議院予定候補からのメッセージが紹介されました。各地域・団体からの決意表明では、美唄の吉岡健二郎さんから「美唄市議選で2議席を失い、申し訳ありません。参議院選挙では、その悔しさをバネに、総力をあげて、奮闘します」と涙の決意表明がありました。

日本共産党北海道議員団 夕張博物館視察・市長懇談



6月12日、真下紀子・菊池葉子・宮下潤の3道議が夕張市を視察に訪れ、厚谷 司市長と意見交換をし、火災にあった石炭博物館模範坑を視察しました。「修復には国の支援が必要。支援の仕組みや再開と一緒に考え、道議会でも取り組みたい」と、市長を激励しました。

党夕張総合後援会 全市で街頭宣伝・ビラ配布・対話活動



くまがい桂子市議の訴えに聞き入る人々

から団地や個人住宅地で、7回目は真谷地で4か所、8回目は登川・楓、9回目は南部を予定しています。

連日の行動はくまがい桂子市議の街宣、後援会員の旗持ち、宣伝のためのビラ配布・対話等が合わせて行われています。

くまがい桂子市議は、①8時間働けばふつうに暮らせる社会に②お金の心配なく学び、子育てできる社会を③くらしを支える安心の社会保障にの3つの政策を中心に街頭で訴えてきました。

国会では、政権に都合の悪いことは、議席の多数をもつて隠蔽したり、報告書を受け付けない、うそのデータや横暴を政府・与党は続けてきました。

いよいよ参議院選挙の公示日を迎えようとしています。

日本共産党の地域新聞 発行所：日本共産党夕張市委員会 夕張市千代田2番地の1 Tel/Fax 52-3097 2019年6月30日(日) 1604号(2)

くずさんの 夕張歴史散歩(114)



明治維新 30 / 朝鮮干渉 ⑭

事件は闇の中か

当初この犯行は、人知れず夜中に決行の予定でした。しかし大院君の抵抗のため大幅にずれ込み、夜明けになってしまいます。ために外国人を含む多くの人びとの眼にさらされ、大騒ぎになります。

午後になりロシア公使ウエーベルをはじめ各国の公使らは、日本公使館を訪ね三浦に詰問します。事は国際問題になってきました。

日本政府はどう動いたか

翌十日、西園寺外務大臣は、小村寿太郎(当時外務政務局長)をソウルに特派し調査させます。政府がおそれたのは、ロシアなど諸外国の強硬な態度に出る事でした。小村の派遣の目的は、ことの真相はさておいて、これ以上の事態を紛糾させないように処理する事でした。しかし、その報告書には「王妃は日本人の手にて殺害し其屍を焼きたり」「朝鮮王妃殺戮事件に関して参謀本部にて関係せる顛末左の如し・・」と、日本と参謀本部の関与に言及しています。

誰も責任を問われず

事件が公になり国際的に批判の聲が高まると、明治政府はあわてて三浦をはじめ関係した軍人・警官ら48人を朝鮮から退去させ、広島で80日間収監します。しかし、軍法会議でも法廷でも、証拠不十分として罪に問われず全員釈放、結局は一人も処罰されていません。

しかも三浦は、後に(一九一〇年・明治43年)枢密官顧問にまでなり、国の重要な政策決定に参加しているのです。こうして「歴史上古今未有の凶悪」(内田定槌書記官が報告書で表現)事件は、うやむやに葬られてしまいました。



島山和也「かけある記」 前衆議院議員 はたやま和也

みんなで怒りを口にしよう

「二十万円なんて貯められない!」と、どこでも驚きと怒りの声があがっている年金問題。「もうけも少ない自営業で、夫の分しか年金保険料を払えず妻が無年金」「少ない国民年金から介護保険も引かれる。消費税なんて絶対に上げないで」との訴えが突き刺さります。

ところが問題の報告書をなかつたものとして、やり過ぎそうとしている政府・与党。安倍首相にいたっては、高所得者の優遇を見直して財源をつくろうという日本共産党の提案を「ばかげた政策」と冷たく言い放つたではありませんか。くらしや年金より、大金持ちを大事にするのが安倍首相だと、よくよくわかりました。

こんな政治には、庶民の怒りの声をぶつけなければいけない。そう街頭で私が呼びかけると、足を止めたり家から出て話を聞く方が必ずいます。その多くが低年金に苦しむ女性です。年金制度でも差別がある国だと、あらためて痛感するので

す。年金は今の日本社会の縮図であり、一人ひとりの人生の写し鏡。ご苦労された人生が報われないまま老後を迎える国なんて、とても幸せな国とは言えない。若い人だって老後の不安はぬぐえない。なにが「一億総活躍社会」なのでしょう。参議院選挙の公示が迫っています。くらしを守るならば、二十万円を貯めるより安倍政治を変えるほうが近道です。くらしの実感と怒りを共有して、安倍政治を変える道筋を堂々と訴えたい。日本共産党とはたやま和也へ、お力をお貸しください。